



#1.子どもにとっての新型コロナ・パンデミック

私たちは今、これまでだれも予想も経験もしたことのないような事態に遭遇しています。新型コロナのパンデミックが引き起こした乗り越えなくてはならない困難が沢山ありますが、ここではあまり焦点の当たらない子どもたちの心の問題に焦点を当てます。

子どもたちにとって今度のパンデミックの特徴はまず日常の剥奪でした。いつも何気なくできていたことの多くのことが影響を受け休止になったり変更になったりしたからです。子どもたちは日常によって心のバランスを維持していますから、これはとても大きな痛手です。

今回のパンデミックのもう一つの特徴は『格闘する相手が見えないこと』でした。これまでの災害のように目の前で日常が破壊されるのではなく、見えるものは何一つ変わらないのに、活動だけが停止するという事態は、とても受け入れにくいものです。また、新型コロナにかかった人が身近にはあまりいないこと、でも実際には誰が感染しているかが見えにくいことなども、この『見えない』という特徴の一部になっています。

そして、最後の特徴は『終息の見通しが立たないこと』ではないでしょうか。日常の喪失も、見えない格闘も、いつまで続くのかをだれも知りません。大人に聞いてもさっぱり要領を得ないという状況を子どもたちは経験しています。人類が果たしてこのウィルスに勝利できるのかも、じつはよく

わかりません。この非常事態の終わりがいつやって来るのかという不安を、大人以上に子どもたちは肌で感じているようです。

(田中 哲 こころの発達総合支援センター所長)

